

SEMMOTO NEWSLETTER

2020.8.12 No.3

CONTENTS

- ◆ 交流会（狂言鑑賞）
- ◆ 第1期・第2期千本奨学生の奨学生継続認定
- ◆ 理事・評議員の就任
- ◆ オンライン交流会
- ◆ 第3期奨学生候補生の選定
- ◆ 第1期・第2期千本奨学生・3月末奨学生レポート



交流会（狂言鑑賞）にて



公益財団法人
千本財団

Frances and Sachio Semmoto
Foundation

■交流会（狂言鑑賞）

2019年12月15日（日）に第1期千本奨学生の日本文化体験として、国立能楽堂へ狂言鑑賞に行きました。第1期千本奨学生3名、事務局1名の他レノバ有志5名が参加し、狂言を鑑賞しました。詳しい解説付の演目であったとはいえ完全に理解することは難しかったという声があった一方で、国立能楽堂の建物から感じられる和の雰囲気も相まって日本の伝統文化の世界に浸ることができました。狂言鑑賞後、出席者全員自己紹介をし、お茶を飲みながら、狂言の感想、レノバ社員の仕事のことなど皆で語り合いました。奨学生にとっては、この交流も貴重な学び、気づきの機会となりました。



SABRINA MEGUMI AHMAD

(インドネシア) 写真左
狂言を見に行き、今まで見たことのない日本の文化を知ることができました。マイクなしで会場に響く声を出せることが凄くて、素晴らしい演出だと思います。当然伝統的なものなので、聞きにくい言葉や意味がわからない言葉もあって少しわかりづらいところもありました。そしてレノバの皆さんと様々な話をさせていただいて、日本の社会のことも学べて、日本語の会話の練習にもなったと思います。大学ではあまり人と話さないもので、いい機会になったと思います。

VU KIM QUANG

(ベトナム) 写真中央
初めての狂言鑑賞でした。いって良かったと思っています。言葉が難しいところがたくさんあり、言葉があまり分からないところがありました。自分の目で見て、自分で考え、想像することができました。言葉が分からなくても楽しいところが自分で感じられ、たくさん笑いました。あそこが狂言の魅力的なところだと思います。また、驚いたのは今回見た劇は普段の生活と近いところがたくさんあることとベトナムにもこういう劇があり、笑うところもほとんど同じことです。日本の文化とベトナムの文化がこんなに近いかと初めて思いました。

TAN ZU SHENG

(マレーシア) 写真右
日本に来てから、日本特有の文化に接触する機会がありませんでした。ですから、今回の狂言鑑賞に参加することで、初めて日本の文化に接触したように感じられました。狂言鑑賞中、役者たちの話し方を聞いて、まるで昔の人の話し方のように感じました。言葉も現代日常生活においてあまり使わない言葉を使っていました。ですから、役者達が伝えたい事が伝わらなく、冗談が分からないかもしれない。しかし、何事でも経験であることで、また鑑賞出来る機会があれば、ちゃんと冗談が伝わるよう、耳を澄ませて聞きたいと思います。



■第1期・第2期千本奨学生の奨学生継続認定

2020年3月、第1期千本奨学生3名および第2期千本奨学生4名あわせて7名全員の2020年度(2020年4月～2021年3月)の奨学生継続が認定されました。2020年3月31日(火)に第2期千本奨学生の大学合格祝賀を兼ねた継続認定授与式を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、オンラインでオリエンテーションおよび交流会のみ実施しました。2020年度継続となった奨学生は以下のとおりです(アルファベット順、所属大学・学年は2020年4月現在)。

【第1期奨学生(3名)】

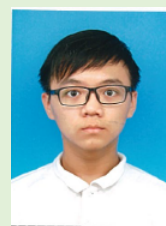
SABRINA MEGUMI AHMAD

サブリーナ メグミ アハマド
インドネシア
神奈川大学 理学部
数理・物理学科 2年



TAN ZU SHENG

タン ズー シェン
マレーシア
山梨大学 工学部
コンピュータ理工学科 2年



VU KIM QUANG

ヴ キム クアン
ベトナム
東京理科大学 工学部
機械工学科 2年



【第2期奨学生(4名)】

CHEAH JIA YI

チャー ジャ イー
マレーシア
東京農業大学 生命科学部
分子生命化学科 1年



LIM AN QI

リン アン チ
マレーシア
京都精華大学 マンガ学部
アニメーション学科 1年



MELLISA ARDELIA

メリサ アルデリア
インドネシア
東京理科大学 理学部第一部
化学科 1年



NGUYEN BAO HUNG

グエン バオ フン
ベトナム
同志社大学 商学部
商学科 1年



■理事・評議員の就任

2020年4月、新たに理事として小林英夫氏、評議員として飯田さやか氏が就任しました。これにより、千本財団は理事および評議員が各5名となりました。

理事：小林 英夫氏

多摩大学 経営情報学部経営情報学科教授 学長室長 経営情報学科長

評議員：飯田 さやか氏

VUILD株式会社CFO、株式会社ベルデザインCFO、
Mistletoe Japan 合同会社 Senior Director等

■オンライン交流会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初、2020年6月に予定していた奨学生との交流会を中止しました。その代替として、2020年5月24日（日）にオンラインで奨学生と交流会を行いました。出席者は、第1期千本奨学生3名、第2期千本奨学生4名、千本代表理事、小林理事と事務局1名のあわせて10名でした。コロナ渦で大学の講義は全てオンライン授業に切り替わり、第2期千本奨学生は大学の入学式も中止となった中、奨学生が順調にオンライン授業を受けられているか、心身ともに健康で過ごしているか、大変心配されるところでしたが、皆、それぞれの環境の中、元気に取り組んでいる様子が見受けられ、安心しました。

以下、今回のオンライン交流会でも話題にのぼった奨学生のオンライン授業を受講した感想です（一部の奨学生分抜粋）。

VU KIM QUANG（ベトナム） 東京理科大学 工学部 機械工学科 2年

オンライン授業を受けて、この形の授業もいいのではないかと思います。同期遠隔授業では、普通の授業と同じように授業の時間が来たらZOOMにログインして、授業に参加します。良いところは分からないことがあったらチャットボックスですぐ先生に聞けることです。非同期遠隔授業では先生又は授業担当者が授業の時間が来たら、ビデオと課題をアップロードし、相談コーナーを開きます。この授業でも分からないことがあったらすぐ聞けますが、時間の制限がありますので1回の授業で対応される学生の人数に制限後ありますが、インターネットとかで自分で調べることができ、メールで聞けます。また、授業のビデオを何回も見ることができますので、曖昧なところや分からないところがあったら見直すことができますので、非常に便利だと思います。そのおかげで自分の授業内容の理解を深めることができますと思います。また、授業が終わったら、授業に使われるスライドや先生がノートで説明する写真が載せられるので、勉強しやすく、復習にも便利です。

NGUYEN BAO HUNG（ベトナム） 同志社大学 商学部 商学科 1年

オンライン授業は様々な良い点があります。例えば、分からないことがあったら授業中でもすぐ調べられ、ネット上で行われるから学校に行かなくても良くて、家で楽に授業を受けられます。しかし、対面授業が実施できないため、先生とクラスメイトが会えなくて、分からないことがあったら相談できないので困ったこともあります。また、口頭表現の科目はやはり教室で皆の前でプレゼンテーションする方が良いから、効果が下がる感じがします。その様に感じた科目もいくつかあります。

■第3期千本奨学生候補生の選定

千本財団では、当初、2019年度と同様、2020年10月に奨学生選考会を行い、第3期千本奨学生として最大5名を選定し、2020年10月～2021年3月までの6カ月、月額9万円の給付を行う予定でした。しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、経済的に影響を受けた学生を早期に多数救済する必要があると考え、当初の予定を変更し、第3期奨学生候補生として10名を2020年7月に選定、2020年8月～2021年3月までの8カ月、月額6万円の給付を行うこととしました。2021年3月に10名の候補生から5名を第3期奨学生として選定、2021年4月に大学進学後、月額12万円の給付をします(1年更新)。

このたび、書類選考をへて選ばれた第3期千本奨学生候補生は以下の10名です（日本語学校アイウエオ順（所属校で複数採用の場合、候補者アイウエオ順））。

名前（ローマ字）	名前(カナ)	国籍	所属校
CHIN TECK CHING	チン テク チング	マレーシア	アジア学生文化協会
HA THI TRA MY	ハ ティ チャ ミー	ベトナム	アジア学生文化協会
PHANSUWAN CHAICHUMPHON	パンスワン チャイチュムポン	タイ	JET日本語学校
MAHESA PAMUNGKAS SUGIHARTO	マヘサ パムンカス ス ギハルト	インドネシア	JET日本語学校
TRAN THI ANH THU	チャン ティ アイン トゥー	ベトナム	千駄ヶ谷日本語学校
TRUONG HUYEN TRANG	チュオン フェン チャン	ベトナム	千駄ヶ谷日本語学校
LEON ADITYO HARTANTO	レオン アディティオ ハルタント	インドネシア	東京ギャラクシー日本語学校
TRAN THUC NHI	チャン トック ニー	ベトナム	東京国際大学付属日本語学校
DANIELLA VIDYA MAHARANI	ダニエラ ビディヤ マ ハラニ	インドネシア	日本学生支援機構
ALFRED NGU YOK FEI	アルフレッド ウー ヨ ク フェイ	マレーシア	メロス言語学院

■第1期千本奨学生・2020年3月末奨学生レポート

①2019年度の振り返りと2020年度の抱負（勉強面） ②2019年度の振り返りと2020年度の抱負（勉強面以外、生活面）

SABRINA MEGUMI AHMAD（インドネシア）

神奈川大学 理学部 数理・物理学科

①2019年度、大学1年生は私にとっては楽ではなかったです。入学前に日本語を1年以上勉強しましたが、大学で使う専門用語などがあって、基本的なことでさえつまづいたこともあります。気付いたらもう夏休みということも感じたことがあります。2020年度の抱負は、予習や復習などをする時間を増やして、空いてる時間を以前よりもっと大切にしたいと思っています。専門外の授業や、運動系の授業もまた受けたいと思っています。2年には実験もあるので、それに必要な知識を予習して身につけたいと思っています。

②去年と違って、今住んでいる場所の環境に随分慣れて来ました。去年は色々なことを東京と比べて、すごく不便だとは思わなかったです。2020の抱負の一つは、もっとたくさん本を読むことです。日本語の本以外、英語の本も読みたいと思っています。

TAN ZU SHENG（マレーシア）

山梨大学 工学部 コンピュータ理工学科

①前期の成績はあまり良くなって、理由は勉強不足だと思います。ですから、後期はさらに努力して、中間試験の成績は前期よりも少し上げることができました。今はまだ発表されていませんが、GPAは前期よりも良くなるのが期待できると思います。今年はGPAを上げることに専念し、頑張っていきたいと思っています。しかし、成績は単なる数字に過ぎないので、専門となっているプログラミングの能力も鍛えなければなりません。幸い、プログラミングが上手な友達がいるため、暇のときは相談し合いながらプログラミングの練習をしようと思います。

②去年は勉強以外に何もしてませんでした。授業が終わったらすぐに帰宅する毎日でした。いいこととしては毎月使う金額が抑えられるが、せっかくの大学生活ですしこのままではもったいないと思いました。ですから、今年こそサークルとかに入ったりやることを探そうと思っています。

VU KIM QUANG（ベトナム）

東京理科大学 工学部 機械工学科

①勉強面において、2019年度の振り返ると反省点が3点あります。1点目はなんでも一人で解決するようにすることです。特に前期の数学では分からない知識や問題があったら、友達や先生にも聞かず一人で色々調べて分かるようになりましたが、時間がかかり過ぎて、他の科目の勉強を怠ってしまったことがあるので、期末の全体の成績が良くないです。2点目は計算ミスが多いことです。テストで問題数が多いため、解いた後チェックする時間がとれませんでした。そのため簡単な計算のミスや解いたことがある問題の計算のミスなど点数が取れるはずのところで点数が取れませんでした。また、後期の成績が出て、GPAが良くないですが、全ての必修科目、選択必須科目と専門科目の単位が取れ、2年生で取れない科目がありませんので、今年は専門科目に集中し、点数を改善したいと思います。②勉強以外部活に参加し、1年間続けられました。最初の頃は部活の雰囲気と試合が多いスケジュールになれなく、ストレスを感じましたが、卓球が好きなので諦めずに部活で練習し続け、やっと楽しくなりました。今はたまに部活の友達と外で卓球を一緒にするようになりました。学科が違う友達もできましたので、部活を始めて良かったと思います。また、後期に入ってから、東京理科大学の体育局で仕事を始めて、分からないこととトラブルがたくさんありましたが、先輩の力を借りて、今は仕事をスムーズに対応することができるようになりました。この仕事で、自分が日本社会でどう動くべきか、自分に足りないものがはっきりと見え、先輩と周りの友達のアドバイスを聞いて、自分に一番合う解決方法を探しています。バイトも来週から始まりますので、2年生はもっと忙しくなると思いますが、勉強に影響しないように頑張ります。

■第2期千本奨学生・2020年3月末奨学生レポート

①大学進学にあたっての抱負（勉強面）②大学進学にあたっての抱負（生活面・キャンパスライフなど） ※大学名は2020年4月からの進学先

CHEAH JIA YI（マレーシア）

東京農業大学 生命科学部 分子生命化学科

①大学で基礎をしっかり学んで特に物理に集中します。大学の授業について行けるかどうかは心配ですので事前に復習をして大学に入る後も日本語の勉強を続けます。大学での外国語科目にはフランス語がありませんのでスペイン語を学びたいと思っています。

②サークルに入って色々な人たちと知り合いたいです。そして様タイベントに参加したいです。大学の収穫祭がとても楽しみにしています。

MELLISA ARDELIA（インドネシア）

東京理科大学 理学部第一部 化学科

①必要な単位を全部一回目に取れるように、平均以上の点数を取れるように頑張ります。物理化学、特に量子化学に関して深く学びたいと思いますが、その勉強に伴って研究したい内容をより具体的に考えていきたいと思っています。その中、化学反応の過程にも特に興味があります。

②大学では合唱かダンスかボクシングのいずれか一つの部活あるいはサークルに入り、活動していきたいと思っています。それに、機会があれば2年生か3年生の夏には海外の大学に短期留学したいです。

LIM AN QI（マレーシア）

京都精華大学 マンガ学部 アニメーション学科

①大学に入ったら、一番心配しているのはやはり、先生の言うことを全部聞き取れるかどうかと、全て理解できるか、その面の問題です。授業で集中することはもちろん、もし必要があれば、携帯で録音することもあります。一年生の時に、しっかりと基礎を身につけながら、発想力をもっと付けたいと思います。そこで良い成績を得、面白い大学生活を送りたいです。

②学生寮に住む予定なので、そこでいろんな人と仲良くなりたいです。日本人のルームメイトと一部屋なので、彼女に日本文化とか関西弁とかを教えてもらえれば嬉しいと思います。学校は授業の他、サークルにも参加するつもりです。今足の調子はまだまだですが、バドミントン部には入りたいです。

NGUYEN BAO HUNG（ベトナム）

同志社大学 商学部 商学科

①まず、一、二年次の方は基礎的知識をしっかり身に付けます。そして、三年生になると、自分が強い関心を持っている「消費者行動論」を詳しく勉強して、それ以外にもマーケティングや商業、貿易に関する知識もたくさん学びたいです。また、将来の就職や起業に大変有利だと思うので、インターンシップにも参加して、講義からは学べない様々なことを身に付けます。四年次以降は卒業論文や就職活動の準備に取り組んで、社会人になるための必要なことを備えたいと思います。②勉強以外に趣味のよさこいなどのサークルやボランティア活動にも積極的に参加して、たくさんの人と出会い、いい仲間や友達と一生忘れられない思い出を作りたいです。大学生生活を通じて、自分を磨き、成長させたいと思います。